

茨城県陶芸美術館 企画展

# ガレの陶芸

— 世紀末の煌めき  
昆虫・植物・ジャポニスム —

プレス・リリース



エミール・ガレ 花器 水仙文1884年-1904年 個人蔵

茨城県陶芸美術館

〒309-1611  
茨城県笠間市笠間 2345 番地  
(笠間芸術の森公園内)  
Tel:0296-70-0011 Fax:0296-70-0012  
<http://www.tougei.museum.ibk.ed.jp/>

## 1 展覧会名

ガレの陶芸 一世紀末の煌めき 昆虫・植物・ジャポニスム

## 2 主催

茨城県陶芸美術館

## 3 会期

2020年1月2日(木)ー3月8日(日) 58日間開催

## 4 利用情報

開館時間：午前9時30分から午後5時まで（入場は午後4時30分まで）

休館日：毎週月曜日（ただし1月13日（月・祝）、2月24日（月）は開館）、  
1月14日（火）、2月25日（火）

開館時間：午前9時30分から午後5時まで（入場は午後4時30分まで）

## 5 観覧料

一般730(580)円 満70歳以上360(290)円 高大生520(420)円 小中生260(210)円

※（ ）内は20名以上の団体料金。身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳  
または指定難病特定医療費受給者証をお持ちの方および付き添いの方 [ただし1人につ  
き1人まで] は無料。土曜日は高校生以下無料。2月22日（土）は70歳以上無料。

## 6 展覧会概要

19世紀末、フランス北東部のナンシーを拠点に活躍したエミール・ガレ（1846 - 1904）。  
日本をはじめとする異国の文物や身近な自然の姿を見つめ、そこから独自の表現を生み出す  
ことでアール・ヌーヴォーの立役者となったガレは、自身が率いるガレ商会のアート・ディ  
レクター的存在として、ガラス・木工家具・陶芸の全ての作品のフォルムや装飾図案を決定  
し、数多くの作品を世に出しました。

本展では、新しい表現を生み出そうとする絶え間ない創意と情熱に裏打ちされたガレの  
業績を、約90点の陶芸作品を通して紹介します。ガレの陶芸を中心に取り上げた展覧会は  
少なく、本展はとりわけ初期の作品から、陶芸制作が佳境に入った1880年代後半の大作が  
まとめて出展される貴重な機会です。ガレの飽くなき創造世界が垣間見える、多彩な陶芸  
作品の魅力をお楽しみください。

### エミール・ガレについて

父の代からの高級磁器やガラスを扱う店に生まれ、31歳の時に家業を  
引き継ぐ。当時の流行でもあったジャポニスムなどの異国趣味を取り  
入れた斬新な作品を、万国博覧会等で発表しながら評判を得ていく。  
やがて自身の植物学や文学の知識、日本美術への理解などを反映させ  
た、より芸術性と独自性の高い作品を生み出し、ガラス、木工家具、  
陶芸の3つの分野でそれぞれに優れた作品を残す。大規模な博覧会が  
相次いで開催される時代の中で、常に新しい表現を生み出し発表する  
ことに情熱を傾けた、実業家であり芸術家でもあった。1904年、白血  
病のため58歳で死去。



### 広報文1（約40文字）

アール・ヌーヴォーの巨匠エミール・ガレの陶芸作品約90点を紹介します。

### 広報文2（約80文字）

本展は、アール・ヌーヴォーの巨匠エミール・ガレの陶芸に焦点をあて、初期の作品から  
制作が佳境に入る1880年代後半の大作まで、約90点をまとめて紹介する貴重な機会です。

### 広報文3 (約180文字)

本展は、アール・ヌーヴォーの巨匠エミール・ガレの陶芸に焦点をあて、初期の作品から制作が佳境に入る1880年代後半の大作まで、約90点をまとめて紹介する貴重な機会です。ガレ商会のアート・ディレクター的存在として、昆虫や植物など身近な自然や、日本をはじめとする異国の文物を着想源に、ガラスや木工家具だけではなく、陶芸においても新しい芸術表現を生み出そうとしたガレの飽くなき創意と情熱を紹介します。

## 7 出品作

(次ページ「作品画像」をご参照願います。)

## 8 見どころ

- (1) ガラス作品で知られるガレの、あまり知られていない陶芸作品の魅力
  - (2) デザイン・技法の絶え間ない変化と、新たなスタイルへの変遷の魅力
  - (3) 「ジャポニスム」を始めとする、19世紀末フランスの人気・流行スタイルの魅力
  - (4) 自然を愛したガレが、精密な観察を基に作品に反映した昆虫・植物の魅力
  - (5) 作品の多様性から垣間見える、ガレのアートディレクターとしての魅力
- ※ 展示作品はすべて『撮影可能』

## 9 関連イベント

### ◆講演会「ガレの陶器制作をめぐって」(予約不要)

ガレ研究の専門家である山根郁信氏に、ガレの陶芸制作を中心に、ガラスや家具作品との関連に触れながらご講演いただきます。

- (1) 講師：山根郁信氏 (美術史家)
- (2) 日時：2月22日(土) 13:30～15:00
- (3) 会場：当館1階 多目的ホール
- (4) 参加費：無料 (展覧会をご覧いただく場合は、別途観覧料が必要となります。)
- (5) 定員：120名

### ◆新春茶会「植物やいきもの柄の道具で感じるガレの世界」(要予約)

虫や花、いきもの柄のお茶碗を鑑賞し、使って楽しむお茶会です。

学芸員の  
トーク付き!

- (1) 講師：海老澤<sup>そうごう</sup>宗香氏
- (2) 日時：2月15日(土) 一席目10:00～ 二席目11:00～ 三席目13:00～  
四席目14:00～ 五席目15:00～
- (3) 会場：当館地下1階 オープンギャラリー
- (4) 参加費：500円
- (5) 定員：各席10名 (空き席がある場合は当日参加も可能です)
- (6) 予約：電話またはFAXで申込 (先着順) 1月2日(木) 9:30より予約受付開始

### ◆ギャラリートーク(予約不要)

担当学芸員が展覧会をご案内いたします。

- (1) 日時：1月18日(土)、2月8日(土) 各日とも13:30から
- (2) 会場：当館地下1階 企画展示室
- (3) 参加費：無料、観覧料にてご聴講いただけます。

## 10 問い合わせ先

茨城県陶芸美術館 〒309-1611 茨城県笠間市笠間2345 (笠間芸術の森公園内)

TEL: 0296-70-0011 FAX: 0296-70-0012

e-mail: kouhou@tougei.museum.ibk.ed.jp

担当学芸員：学芸課 名村 広報担当：企画管理課 柴崎

## 11 出品作品画像

下記の作品画像は、広報担当のe-mailアドレスまでご連絡いただければデータをお送りします。使用の際には作品キャプション（タイトル・制作年・所蔵）を併記してください。なお、作者は全てエミール・ガレです。



▲①花器 水仙文  
1884年-1904年 個人蔵  
花のような器形に立体的な水仙の装飾が施されている。



▲②花器 草花文  
1889年-1904年 個人蔵  
紫、緑、黄色の釉薬のグラデーションが美しい作品。



▲③花器 竹形  
1877年頃-1904年 個人蔵  
竹形の器形やユニークな虫の仕草に日本の影響がみられる。



◀④小鉢 虫文  
1889年-1904年 個人蔵  
蛾や蜻蛉、蝶の装飾が美しい。

▶⑤小物入れ 蜻蛉形  
1882年-1904年 個人蔵  
蜻蛉はガレが頻繁に用いたモチーフだった。



◀⑥花器 蟬文  
1877年頃-1904年 個人蔵  
蟬を大きく配置した大胆なデザインの花器。当時のフランス北東部には生息していなかったようだ。



▲⑦植込鉢 瓢箪形  
1877年頃-1904年 個人蔵  
九谷風の絵付で水辺の景色が描かれた植込鉢。